

【シリーズ2】ロシア東欧の文化と芸術（全5回）

コーディネーター：沼野 充義（第9回 ICCEES 幕張世界大会組織委員長／東京大学）＋野中 進（埼玉大学）

今年の8月に開催される国際中欧・東欧研究協議会（ICCEES）第9回世界大会を記念し、この大会の準備のために様々な形でご協力くださっている皆様に感謝の気持ちを表すために、千葉商工会議所のご協力を得て、市民教養講座を千葉市で開催することになりました。

* 6/13と7/25は、科研費基盤研究（A）＜越境と変容—グローバル化時代における
スラヴ・ユーラシア研究の超域的枠組みを求めて＞（研究課題番号：25243002、
代表者 沼野充義）との共催企画になります。

＊予約不要（当日先着順、定員 96 名） / 入場無料 / 聴講自由（満席の場合は立ち見をお願いすることもありますので、予めご了承下さい）

日程：2015/6/13, 20, 27, 7/18, 25（土曜）
時間：14:00～16:30（6/13, 20, 27, 7/18・開場 13:30）
14:00～17:00（7/25・開場 13:30）
会場：千葉商工会議所12階 研修室A（千葉中央ツインビル2号館）

6/13 第1回 文学のヴィジョン、音楽のエクスタシー ——ロシア小説と音楽への誘い

講師1：望月 哲男（北海道大学特任教授、日本ロシア文学会会長）
ドストエフスキー『罪と罰』の主人公も、トルストイ『アンナ・カレーニナ』の主人公も、自分の世界を空間的・時間的なイメージとして捉えています。彼らはどんな風景の中で考え、どんな時間感覚にとらわれているのか。そんな観点から、ロシア文学と我々の世界との関係について考えてみたいと思います。

講師2：亀山 郁夫（名古屋外国語大学学長）
チャイコフスキーを筆頭に、ムソルグスキー、ラフマニノフ、ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、そしてショスタコヴィチ——ロシアの作曲家たちはなぜかくも私たちの心を揺さぶるのか？ エクスタシー（恍惚）とノスタルジー（郷愁）に満ちた、ロシア音楽の秘密に迫ります。
司会：沼野充義

6/20 第2回 目と耳の快楽——ロシアの美術と詩歌

講師1：鴻野 わか菜（千葉大学准教授）
ロシア現代美術の魅力について、多数のスライドと共に紹介します。ソ連崩壊後の文化の状況の変化や、モスクワ、ペテルブルクの美術館・ギャラリーについてもお話しします。

講師2：坂庭 淳史（早稲田大学准教授）
「詩の国」とも言われているロシア—この講座では現在でも人々に愛されている詩をいくつか紹介します。美しく、豊かに表現された自然、愛、自由、音の響きやリズムについて解説しながら、ロシアの詩の魅力に迫っていきます。
司会：野中進

6/27 第3回 踊るロシア、観るロシア——バレエと映画

講師1：村山 久美子（舞踊史・舞踊評論家）
『白鳥の湖』ほか数々のバレエの名作を生み、スーパースターを輩出し続けているロシア・バレエは、長年世界の称賛的であり続けています。そのようなロシア・バレエの歴史と現状のお話で、魅力

を十分にお伝えします。

講師2：佐藤 千登勢（法政大学准教授）
ソ連・ロシア映画の伝統は、緻密なモンタージュや圧倒的な映像美、深い象徴性によって支えられてきたと言っても過言ではないでしょう。このたびは、『パパって、何？』、『父、帰る』、『夏の終止符』のソ連崩壊後に制作された三作品を通し、「父殺し」のテーマの変遷についてご紹介します。
司会：野中進

7/18 第4回 暮らしと食へのまなざし——ロシアの歴史と食文化

講師1：池田 嘉郎（東京大学准教授）
戦争や革命の続く20世紀ロシアで、人々はどのような暮らしを送っていたのだろうか。また権力者と人々の関係はどのようなものだったのだろうか。スターリン時代を中心に考えてみよう。

講師2：沼野 恭子（東京外国語大学）
ロシアの食文化の歴史を絵画や文学や写真によってたどりながら、西欧化による貴族の食と農民の食の分離、ロシア古来の料理と外来の料理、お茶とサモワールの意義、ソ連時代と現代の食生活などについてご紹介します。

7/25 第5回 【シンポジウム】スラヴ文化の広がり ——ウクライナ・ポーランド・旧ユーゴスラヴィア

講師1：V・スロヴェイ（翻訳家・通訳）
ウクライナの伝統的な模様に組み込まれたウクライナ人の文化と世界観、特にイースターエッグ（ピサンキ）や刺繍の色、模様に込められた意味をご紹介します。

講師2：松尾 梨沙（東京大学大学院博士課程）
世界中で愛される作曲家ショパン。一方、あまり知られていない彼の祖国ポーランドの音楽史。ショパン以降現代に至るまで、ポーランドの作曲家たちは彼とどう向き合ったのか。楽曲分析を交えて検証します。

講師3：亀田 真澄（東京大学助教）
社会主義ユーゴスラヴィアは自主管理社会主義に基づき、ソ連陣営と西側陣営のあいだでハイブリッドな文化を発信していました。本講義では、そんな時代のことを懐かしむ、「ユーゴノスタルジー」の様々なあり方についてご紹介します。
司会：沼野充義